

巻 頭 言

コロナ禍が終焉し、会長の任務を全うし、皆様に感謝！

吉原 良浩

(理化学研究所 脳神経科学研究センター)

まず初めに、日本味と匂学会を支えていただいている正会員・学生会員・法人会員の皆様に心から感謝申し上げます。

2021年4月、コロナ禍の真っ只中、私は日本味と匂学会第10代会長に就任しました。前年に緊急事態宣言が発令され、私たちの生活が非日常となり、ウイルスは変異を繰り返し、それまでで感染者が最大となった第3波の荒波が押し寄せる中へと出航しました。三密回避のため、前会長の三輪高喜先生（金沢医科大学）からの直接の引き継ぎ作業も不可能となり、宅急便で送っていただいた約20個の段ボール箱に納められた資料とマニュアルと学会誌のバックナンバーに埋もれながら、事務局アシスタントとして着任したばかりの田中公美子さんと、まさに暗中模索・五里霧中の船出でした。

まずは任期3年間の日本味と匂学会の運営方針・目標を考え、学会誌2021年第1号の巻頭言に所信表明として以下の4本の柱を立てました。1) 若手の育成、2) 学会内の異分野研究の融合・交流促進、3) 学会の国際化、4) 学会から社会への情報発信。

1) 若手の育成

本学会には多くの若手研究者や学生の方々が正会員・学生会員として所属し、活発な研究活動をされています。しかしながらこれまでは年次大会しか交流・情報交換の場がなく、若手に特化したイベントも年次大会の若手シンポジウムだけでした。そこで廣田順二先生（東京工業大学）に若手の会ワーキンググループ（WG）長となっていただき、実行委員を募りました。その結果、多彩なバックグラウンド（基礎・臨床・企業）をもつ若手研究者が集い、実行委員となり、「JASTS 若手の会」を発足させることができました。2021年度はコロナ禍のためにオンラインでの会合のみでしたが、2022年度は仙台大会に先立ち、1泊2日の合宿形式で第1回 JASTS 若手の会が開催されました。その後2023年度は横浜で、今年度は岡山で若手の会が開催され、本誌にその報告が記されています。ゼロから JASTS 若手の会を作り、動かし、軌道に乗せていただ

いた初代実行委員長の中北智哉さん（明治大学）、第2代委員長の村田航志さん（福井大学）をはじめ、実行委員の皆様心から感謝いたします。

JASTS 若手の会について特筆すべきは、若手研究者から構成される実行委員会にすべての運営をお任せし、私たち年寄り口を挟まずに補助金を出すだけに行っていることでしょうか。若手研究者が自主的に会の立案・準備・開催とともに予算管理をすることが、彼らが将来、シンポジウムや大きな学会を開催するためのトレーニングにもなっているはずです。この JASTS 若手の会から、日本さらには世界の嗅覚・味覚研究を牽引し、本学会の発展にも貢献していただける多くの優秀なリーダーが輩出されることを期待しています。

2) 学会内の異分野研究の融合・交流促進

編集委員長の横須賀誠先生（日本獣医生命科学大学）には、学会誌のさらなる充実に取り組んでいただきました。以前と同様に多くの総説・研究室紹介・海外日より・書評・技術ノートなどを掲載するとともに、優秀発表受賞者の記念寄稿、若手の会のページなど、新たなコンテンツを盛り込んでいただいたことが、今後の異分野研究の融合と交流促進に結びつくと思っております。横須賀先生、編集委員の皆様、ありがとうございました。また、コロナ禍の制限の中でも福岡大会・仙台大会・東京大会を開催し、学会内の交流促進を進めて、成功裏に導かれた重村憲徳先生（九州大学）、坂井信之先生（東北大学）、廣田順二先生（東京工業大学）に深く感謝いたします。

3) 学会の国際化

コロナ禍がもたらした1つのメリットは、私たちが Zoom などを用いたオンライン会議やセミナーに馴染み、画面越しでも十分に深い議論ができることが分かり、時間と経費を大きく節約できる新たなミーティングの形態が確立したことです。これを利用し、東原和成先生（東京大学）に WG 長となっていただき、「JASTS セミナーシリーズ」を開始しました。これまでに Linda Buck, Charles Zuker, Jay Gottfried, Xiaodong Li, Emily Liman, Thomas Hummel 博士という世界の化学

感覚研究の先頭を走り続けている6名の著名な先生をお招きし、研究の背景から最新の知見に至るまでの素晴らしい講義を、私たちは職場あるいは自宅で聴講することができました。今後もこのセミナーシリーズが継続することを願っております。

4) 学会から社会への情報発信

本学会のような学術団体にとって、社会への情報発信、いわゆるアウトリーチは重要な活動のひとつです。一般の皆様にも本学会の活動をより良く知ってもらうために、学会ホームページの刷新を行いました。学術広報委員会の岩槻健先生（東京農業大学）と河合美佐子先生（がん病態味覚研究会）には特にご尽力いただき、

レイアウトの大転換とともに、英語ページの充実化、会員の活動報告、JASTS 若手の会のページの導入など、新たなコンテンツを加えて、今年の2月から新たなホームページを公開することができました。

コロナ禍が終焉するとともに、私は会長の任期を終え、東原先生に船長の大役を無事に引き継ぐことができました。波瀾万丈だった3年間、一緒に航海してくれた事務局アシスタントの田中公美子さんと岩崎由布子さんに深謝いたします。彼女たち二人がいなければ、私の船はコロナの荒波に沈没していたでしょう。

最後になりましたが、東原会長のもと、日本味と匂学会がさらなる発展を遂げることを祈念いたします。